

■患者講義について

全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団においては、集団予防接種によりB型肝炎に感染した患者などを講師として派遣し、被害者の声を伝える活動「患者講義」を行っています。

この「患者講義」については、令和4年度から厚労省と連携し全国の中学校でも展開されております。これまでに実施された「患者講義」の感想の一例を紹介します。

○生徒の感想

- ・B型肝炎についての正しい情報や知識を知ることが大切だと思います。私はもし、B型肝炎になってしまった方に会ったら、その人が抱える苦しみへの想像力を働かせて接したいです。(新潟県)
- ・聞く前はB型肝炎がどのような病気なのか、どんな症状があるのかなど全く分かりませんでした。ですが、今日話を聞いてB型肝炎の怖さや差別などさまざまなことが分かり大変だと思いました。ですが、何十年もかかってやっと対策がとられるようになり長かったけど、良かったと思いました。(新潟県)
- ・今しっかり管理された中で予防接種が受けられるのは、こういう過去があったからであって、今の環境を当たり前と思わずにしっかりと受け止めたいと思う。(新潟県)
- ・自分にとって正しいと思っても、ほかの人から見たら間違っていることもある。いろんな視点を持って物事を考えることが大切だと思う。(新潟県)
- ・患者さんの話で、歯医者に行ったときに断られた話が印象に残りました。もし、家族や友達に感染者がいたら、やさしく面倒をみてあげたい。(福岡県)
- ・今日の授業では、B型肝炎感染の発症などについて正しい知識が得られた。患者さんの話では、差別を受けたといわれたが、その他のウィルスなどでも差別が起こっていて、同じ過ちをくりかえしているようで悲しくなった。(福岡県)
- ・今日のお話をしてくださった方以外に、もっとたくさんの方が苦しんでいると思うと、同じ過ちを繰り返してはならないと思いました。この体験談を聞いたことを、少しでもこれからの生活に活かしていきたいです。(鳥取県)
- ・私は、B型肝炎のことは、何か関係ないやと思っていました。でも、弁護士や患者さんの話を聞き、自分にも関係があり、将来このようなことが起きないように、私たちが頑張っていかなければいけないんだと感じました。(鳥取県)
- ・被害の辛さをいろんな人に知ってもらおうとすることを尊敬する。(岡山県)
- ・この話を家族や周りの人たちに伝えていきたい。(岡山県)

【患者講義に関するお問い合わせ】

厚生労働省健康局がん・疾病対策課B型肝炎訴訟対策室

F A X : 03-3595-2169 / e-mail : bkan-inochi@mhlw.go.jp